
大人になることへの代価

藤波 咲

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

大人になることへの代価

【Nコード】

N5809H

【作者名】

藤波 咲

【あらすじ】

当たり前のように過ぎていく時間の中で当たり前のように失っていくモノに目を向ける事など一度もしないままに大人になってしまった主人公。そして大人になってやっと気付く、自分の失くしてしまったモノ。大人になる事で見失いがちな事を見直せるような話。

本の一冊くらい持つてくるんだった。

走る箱に飛び乗った僕は時間を持て余していた。

あるのは電波の入らない携帯電話と財布に手帳、そして有り余った時間だけだ。

長い旅になるというのに、出だしから転んだ気分だ。

仕方がないのでこうしてそんな現状を書きとめてはみたがそれも暇つぶしにすぎない。

目的地も定めずに、ふらりと旅に出たのがそもそもの間違いだったのだろうか。

ぶら 途中下車の旅じゃあるまいし、実際の旅はそうそううまくはいかない。

宿泊費や食費が余計にかかるばかりで、そのくせ得られるものなんて記憶しかない。

それでもなんとなく旅に出たい気分だった。

だから最低限必要な物だけを持つてこうして走る箱に揺らされている。

僕はこれからどんな代価を支払い、どんな報酬を得るのだろうか。

それを考えると少しだけわくわくした。

走る箱に揺られて数時間。風景は殺伐とし始めて、乗客も数えるほどにしか居なくなつた。

箱からは田んぼや畑、野原が延々と映し出されている。都内で暮ら

している僕には少し新鮮な光景だ。

車両内に乗客が僕だけになった頃、駅名に魅かれたというだけの理由で僕は箱を降りた。

見たことも聞いたこともないような田舎の駅。見渡す限りに人はいない。

潮の香りだけが微かに鼻を掠めた。

駅前に置かれた駅周辺の地図は殆ど解読不能だった。唯一わかったのは、近くに海があるという事だけ。

何をすると決めて出てきたわけでもなかった僕はとりあえずその海を目指すことにした。幸い海までは一本道だ。もっともこの地図が正しければ、の話だけれど。

僕は殺伐とした風景が延々と続く一本道の中、歩を進めるたび潮の香りが強くなるのを感じていた。

そういえば海なんて見に行くのはいつぶりだろうか。

海自体は東京にだってある。けれど淀んだ空気にかき消されて、潮の香りなんてものはまず味わえない。

僕は澄んだ空気と潮の香りに新鮮なようで懐かしいような、そんな感覚を覚えた。

歩き始めて30分程経った頃にやっと海が見えてきた。

同じ光景があまりに繰り返されるものだからすごく長い時間に思えたし、歩き慣れていないせいで酷く疲れた。

けれどそんなものは海が見えるのと同時にどこかへ行ってしまった。

その海はとても澄んでいた。

緑色をした東京の海と違って、綺麗な青色の海だった。

たった、本当にたったそれだけのことに、何故か僕は泣いていた。悲しかった訳でも、嬉しかった訳でもない。

その理由は僕自身よくわからない。泣くほどの理由があったようにも思えない。

けれど、決して悪い気分じゃなかった。

僕は頬を伝う涙を拭きもせずに、砂浜に座りこんだ。

そして声は出さずにそっと泣き続けた。ここなら泣いてもいいような気がした。

それは、酷く懐かしい気分だった。

きっと幼い子供が母の胸で泣くのと同じなのだろう。その寛容さを前にしてやっと素直になれる。

大人になっただってそれはたぶん変わらない。変わるのはくだらない意地や価値観だけなのだろう。

人前で泣くのは格好悪いだか思っ、しなくなるだけだ。

泣きたい時くらい誰にだってあるのに、なんでそんなくだらない価値観に縛られるようになってしまったんだろう。

それが大人になるという事なんだろうか。それなら僕は大人になんてならなくてよかったかもしれない。

そういえば、母さんの顔も随分と長い事見てないな。

せっかくの旅だ。実家まで足を運ぶのも悪くないかもしれない。

どうせ何も決めずに出てきたんだ。実家に帰って母さんの顔でも見

て来るか。

遠くへ来てしまったせいで実家まではかなりの距離があったけれど、僕は帰りの道中時間を持って余しはしない。

むしろこの旅の報酬を反復するだけでも時間は足りない程だ。

もう本の一冊も必要はない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5809h/>

大人になることへの代価

2010年12月28日02時55分発行